

令和7年度 学校評価アンケート【年度末】結果について(お知らせ)

板野中学校長 高畑 聖

12月中旬から1月中旬にかけて学校評価アンケートをご依頼いたしましたところ、ご協力いただき誠にありがとうございました。生徒のみなさん、保護者のみなさまからいただきました声をしっかり受け止め、今後の「より良い学校づくり」に活かしてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、集計結果の詳細につきましては、本校ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が80%を超えており、評価のよい項目	
◎保護者	
・ 子供は、楽しく学校生活を送っている。	87.3 %
・ 子供は、学校でいじめもなく、友だちと仲よくすごしている。	86.0 %
・ 子供は、場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	90.5 %
・ 子供は、遅刻をしないなど時間を守って生活している。	85.1 %
・ 子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	92.3 %
・ 子供は、予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	81.4 %
・ 保護者は子供の良いところを知っている。	97.3 %
・ 子供は、社会のルールを守る態度が育っている。	91.0 %
・ 子供は、自分を大切な存在であると思っている。	91.4 %
・ 子供は、事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	81.4 %
・ 学校は、美しく整えられている。	84.6 %
・ 学校や先生は子ども同士のトラブルや悩みなどに迅速に対応している。	87.3 %
・ 学校や先生は、いじめや差別のない学校づくりをしている。	86.9 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	86.4 %
・ 学校は、積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている。	85.1 %
・ 学校は、授業参観や学校行事などを積極的に公開している。	95.0 %
・ 学校の便りから、学校の取り組みや生徒の活動の様子がよく伝わる。	86.0 %
・ 学校から発信されるホームページ、「すぐーる」メールは役に立っている。	98.6 %
◎生徒	
・ 学校での生活は楽しい。	83.7 %
・ 学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よくすごしている。	87.9 %
・ 場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	90.0 %
・ 遅刻をしないなど時間を守って生活している。	88.7 %
・ 自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	95.0 %
・ 先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。	82.8 %
・ 予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	80.8 %
・ 提出物を忘れずに出している。	81.2 %
・ 自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。	80.3 %
・ 授業の内容を理解している。	80.8 %
・ 自分には良いところがある。	82.4 %
・ 社会のルールを守って生活している。	92.1 %
・ 道徳の時間に積極的に取り組んでいる。	81.2 %
・ 事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	90.4 %
・ 時間いっぱい清掃に取り組んでいる。	87.9 %
・ 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。	81.6 %
・ いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくろうとしている。	88.7 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	86.6 %
・ 学校からの便りを保護者にわたしている。	86.2 %
「よくあてはまる」「ややあてはまる」が60%に達しておらず、あまり評価のよくない項目	
◎保護者	
・ 生徒は、家庭学習をする習慣が身についている	54.3 %
・ 子供は、家庭でも読書をしている。	31.2 %
・ 子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている。	49.8 %
・ 子供が、道徳でどんなことを学んでいるか知っている。	58.4 %
◎生徒	
・ 朝読書以外にも読書をしている。	38.9 %
・ 地域の行事に参加している。	33.1 %

※評価の分析と今後の取組については、別紙をご覧ください。

評価の分析と今後の取組について

生徒の回答結果では、設問項目 1～10、14、15、18、21、23～26、30 について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な意見は 80%を超えており、概ね満足している状況です。また、昨年度 60%～70%に減少していた項目から 80%を超えた項目が 8 つあり、ほとんどの項目でポイントの上昇が見られました。また、保護者の回答結果では、全 31 の設問項目のうち、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的回答が 80%以上のものが 18 項目あり、昨年度より増加しています。

昨年度は、アンケートの各項目において数値の減少傾向が見られたため、危機感をもって本年度の教育活動に取り組んできました。その成果と課題をご報告いたします。

1. 重点目標「自己肯定感」に関する成果と分析

今年度、本校が最も注力した項目において、次のように着実な数値の向上が見られました。

「自分にはよいところがある（生徒設問 14）」

・R7 年度：82.4%（昨年度 75.9% から 6.5 ポイント の向上）

「自分を大切な存在であると思っている（生徒設問 16）」

・R7 年度：75.7%（昨年度 61.9% から 13.8 ポイント の向上）

昨年度、設問 16 の数値が 61.9%まで落ち込んだことを重く受け止め、今年度は「自己肯定感の回復」を最優先事項に掲げました。年度当初より、あらゆる教育活動を通じて生徒一人ひとりの存在を認め、励ます関わりを全職員で積み重ねてきました。結果として、設問 16 は 13.8 ポイントという大きな伸びを見せました。また、自分の強みを認める設問 14 が 82.4%に達したことは、自己肯定感を支える土台の確立に繋がっていると考えています。数値の上昇により「回復」に向けた一定の手応えを得ることができましたが、十分満足できる状況とは言えないため、今後も継続した取組が大切です。

2. 三者（生徒・保護者・教師）の「乖離（視点のギャップ）」から見える次年度の課題

アンケート結果を詳細に分析すると、次のように立場によって認識に開きがある項目がありました。

「挨拶」に対する評価の差（設問 3 の乖離：24.2 ポイント）

生徒（90.0%）や保護者（90.5%）は「挨拶ができている」と回答していますが、教師の評価は 65.8%にとどまりました。教師側は「場に応じた適切な言葉遣い」や「相手の目を見た主体的な挨拶」を求めており、生徒の現状に対して、より高い社会性を期待していることがわかります。

「相談しやすい環境」について（設問 6 の乖離：25.6 ポイント）

教師の 96.2%が「相談体制を整えている」と考えている一方で、保護者の評価は 77.8%でした。昨年度（70.6%）より上昇しているものの、「体制があること」と「実際に相談しやすい空気があること」の間にあるギャップを埋める努力が必要だと考えています。

3. 「学校生活の楽しさ」と「学びの自律」について

生徒の「学校生活が楽しい」（設問1）という回答は、R4年度（92.8%）からR6年度（82.1%）へかけて緩やかな低下傾向にあります。本年度（R7）は、83.7%と若干の上昇が見られたものの、十分な結果ではないため、自己肯定感の高まりを日々の充実感や楽しさにどう繋げていくかが次年度の大きな課題と捉えています。また、学習・読書習慣の項目では、朝読書以外の読書（生徒設問12：38.9%）や家庭学習の実態（保護者設問11：54.3%）は依然として低い数値であり、自律的な学びの定着をご家庭と共に進めていけるようにしたいと考えます。

4. 次年度（令和8年度）に向けて

今年度のアンケート結果を踏まえ、次年度は次の3点に重点をおいて学校の教育活動がより質の高いものになるよう、より一層努力を重ねていきます。

①「相談しやすい学校」への質的改善

日々の学校生活がお子様にとって安心・安全なものになるよう、生活の様子から気になることがあれば、本人に直接話を聞いたり、保護者の方へ直接お話ししたりするといった対話重視の関わりを、学級担任や部活動の顧問だけではなく、より多くの教職員が担うようにします。また、ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がより伝わるよう、積極的な情報発信に努めます。

②「主体的な挨拶をはじめとした学校の重点行動目標」の達成

本校では、「聞こえる挨拶」、「掃除の徹底」、「時間を守る」、「とことん続ける」の4つを重点行動目標とし、日々の学校生活の充実が図られるようにしています。今年度は、挨拶をはじめ、掃除活動に関しても取組状況に課題が見られました。重点行動目標が達成され、当たり前前の方が当たり前前ができることを目指します。また、単に目標だからという理由ではなく、生徒の将来につながる重要な取組であることをしっかりと伝えていきたいと考えています。

③「自ら学ぶ力」の育成に向けた授業改善、家庭での学習習慣を支える連携の強化

現在、各教科の単元で教師側が示した課題にタブレットを利用しながら、主体的に学習する習慣が定着しています。学校では、Coaching型の授業実践を進めることにより、生徒自らが課題を見つけて解決していく学習の在り方を目指します。また、キュビナ（AI教材）を導入することにより、個々の習熟度に応じた学習が可能になっていますが、家庭学習の時間が十分に確保できていない現状があり、授業における主体的な学習場面が全体的な学力の向上へ確実に繋がっているとは言えません。

今後は、これまでの学習成果と学力向上の関係を考察しながら、ICT（タブレット等）を利用した学習だけではなく、教科の特性に応じて紙媒体での学習等も組み合わせた授業や家庭学習の在り方を模索します。また、学校の取組を家庭に発信し、学校と家庭が情報を共有したうえでお子様へ働きかけることにより、学習習慣の定着を図りたいと考えています。

これからも「子どもたちのより良い成長」を目指した学校改善に取り組んでまいりますので、ご理解とご支援をお願いいたします。